

5. 学術情報ネットワークの私学ノードの設置

14年1月から10ギガによる超高速のスーパーSINETが運営されるに伴い、私立大学では14年度に早稲田大学と同志社大学の2大学を設置したが、15年度においてもノード校を増設すべく関東、関西の2大学の設置について努力したが、予算枠として5件の中で私立大学は1件となり、慶應義塾大学が先端科学技術の拠点として決定した。

その後、平成15年に入って同ネットワークを管理する財団法人情報学研究所と同大学へのノード設置に伴う協力事項打ち合わせを行い、3月に大学関係者と同研究所との間で具体的な設置・工事等に関する調整が始められた。これにより15年度時点での私立大学のノード校は3校となった。

6. 創造的パートナーシップのための日豪会議

日本とオーストラリアとの「創造的パートナーシップのための日豪会議」で「教育と交流の手段としてのeラーニング」の情報交流会が11月7日文科省国際課の要請により開催され、本協会から白井副会長、井端事務局長が出席し、国立大学（東京農業工業大学学長）、メディア教育開発センター、国立教育政策研究所教育研究情報センター、桜美林大学、先端学習協議会、豪州国立大学学長、シドニー工科大学、連邦上院議員、南クイーンズランド大学、南オーストラリア大学、移民局と交流し、2004年末までに日本語、英語のeラーニングのプログラムについて会話技能を中心としたモデルを構築するとの観点から共同でレビューすることと、国際的に通用するeラーニングのケーススタディを構築し、両国間の文化に対する意識向上の重要性を認識すること、保健・環境などの分野でeラーニングを踏まえ、アジア太平洋発展途上国に対し教育機会の促進を働きかけられるようイニシアチブを共同で研究することになった。